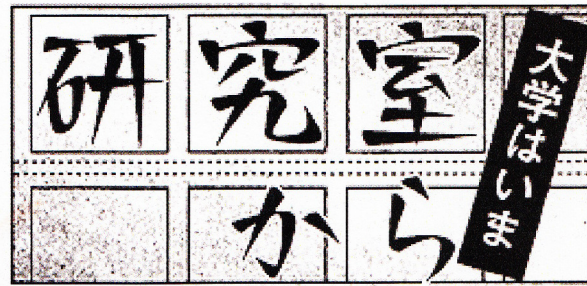


岐阜大応用生物科学部
植物分子生理学研究室

山本 義治教授



光合成に付随して発生の不足などの環境スト
する有害なラジカルヘレスに対しても植物は
の対処、糖や脂質の代生存率を高めより多く
謝、アミノ酸合成、ビの種子生産を行うべく
節する領域（プロモ

伝子の一つ一つの働き
を環境変化に合わせて
調節していくところに
あります。

環境の変化に適応する植物

タミン類やアントシア 対応しています。

ター）があり、その情 います。

ニンなどの2次代謝、

こういった植物の環 報もまたDNA配列と

光環境や環境ストレ

光合成を行う植物に
とって日光は「食料」
ですから、光環境は植
物の生存と成長にとっ
て大変重要です。

葉や根の形状など実
さまざまな生理現象
光環境にリンクして制
御されています。

境適応能力は、悪い環
境から「逃げる」こと
のできる動物と比べる
とはるかに高度に発達
しています。

今、植物ゲノム情報
法を開発することが可
能になります。

また、暑さや寒さ、
乾燥や冠水、土壤栄養

約3万種類ある植物遺
の中で一番分らない

能になります。